

平和の尊さを訴える朗読劇

原村中学校 青い空の会と披露



朗読劇で戦争の悲惨さを伝える原中3年生と「青い空の会」会員

を次世代に伝えようと活動する「青い空の会」は毎年、平和の尊さを訴える朗読劇を同校で行っている。今年度は平和学習講座の生徒たちも、週1回の授業で練習を重ねてきた。

朗読劇は生徒5人と会員6人、教諭1人が出演し、生徒2人が音響を担当した。被爆体験者の手記を集めた「あの夏の日―ナガサキ」を音楽や効果音とともに、出演者が一人一人、時には声を合わせて音読。「水、水をください」といった被爆者の悲痛な叫びを感情を込めて伝えた。

朗読した藤森姫菜さん(14)は「戦争の悲惨さ、大切な人を亡くすつらさを知ってもらい、戦争はだめだと伝わったうれしい」と話した。

古石代表は「ロシアのウクライナ侵攻などがあり、残念なことに生徒たちに戦争が身近になっていると感じる。戦争の悲惨さを次世代に伝えるため、今後も朗読劇を続けたい」と話していた。

原

原村原中学校の総合的な学習の時間「原村学」の3年生の選択講座「平和学習講座」(8人)の生徒たちは24日、村内有志でつくる「青い空の会」(古石久美子代表)会員とともに同校で朗読劇を披露した。長崎

に投下された原爆の被爆者の手記を朗読し、全校生徒約200人が聞き入った。同校生徒と、原爆の悲惨さ